

中大生の旅するチカラ

4

◆学生時代のひとり旅 今しかできない旅をしよう◆

個人旅行が主流の時代に 変化する女性のひとり旅

皆さんには、ひとり旅の経験があたりだろうか。ひとり旅と聞けば、孤独で暗いイメージを抱くかもしれない。今から二十年前、旅行会社に転職したばかりの筆者は、こんな話を聞いて愕然とした。「旅館では、基本的にお一人のお客様をお断りしています」。特に女性のひとり旅はご法度という理由を聞けば、自殺を疑うからとのこと。海外・国内ともに団体旅行全盛で、個人旅行が少ない時代のことである。事実、自身も大学三年当時、金沢・福井へひとり旅したとき、「失恋でもしたのですか?」と岬めぐりのバスで乗り合わせた見知らぬ乗客に声をかけられた。後ろめたさが漂っていたのだろうか、それとも体のよいナンパだった

か。いずれにしても、予想もしない問いかけだった。しかし時代は大きく変わった。旅の形態は個人旅行が主流となり、単身者、とりわけシングル女性、今や旅行市場の牽引者だ。女性の社会進出が進み、ストレス過多が自分帰りのひとり旅、頑張る自分へのご褒美旅行を後押しする。ホテルが実施するレディースプランが、その一例だ。プリンスホテルでは「ひとり旅やまとなでしこプラン」(鎌倉プリンスホテル)を展開中、楽天トラベルでも女性一人旅を



パワースポットや恋愛成就のお社には女性のひとり旅も多い。京都・地主(じしゅ)神社で



千葉 千枝子

Chiba Chieko

■ちば ちえこ 観光ジャーナリスト。東京成徳短大観光学講師。1988年中央大学経済学部卒、富士銀行入行。シティバンクを経て JTB に入社。96 年有限会社設立。運輸・観光全般の執筆、講演活動を行う。All About 旅行チャンネル案内役。日本旅行作家協会、日本観光研究学会等所属。著書に「JTB 旅をみがく現場力」(東洋経済新報社)など。

キーワードに「おひとりさま歓迎の温泉宿」を特集する。出張応援のプランもしかり、性差なく単身でもお得なプランが今では目白押しだ。

ひとり旅は少し割高 安く抑える工夫をしよう

ひとり旅は割高なのではないかと、気を揉む読者もいるだろう。前述のように近年では、ホテルや旅館が一名利用を積極的に受け入れるようになってきているが、果たして、その料金はどのように設定されるのか、簡単に説明しよう。

ホテルや旅館の客室には、それぞれ部屋タイプによって「定員」がある。定員を割って利用する場合、宿泊施設側は、定員どおりの収益を確保できるよう宿泊料金を設定する。ホテルであれば「二名一室」、旅館であれば「五名一室」といった料金体系を基本に算出するため、シングルルーム以



新穂高ロープウェイの展望台では記念写真を販売したい写真屋が、手持ちのカメラでも撮影するサービスを行っている



外を一人で利用すると追加工料が必要だ。海外のパッケージツアーでよく見受けられる「一人部屋追加料金」が、その代表例である。だから二人以上定員の部屋をシングルユースするなら、多少割高になることを覚悟する必要がある。

そうは言っても近ごろは、企業などが出張旅費を圧縮していることから、シングル客室だけをそろえた快適で安いビジネスホテルが増えている。客室内にミニバー（有料飲み物を備えた冷蔵庫）はなく、空っぽの簡易冷蔵庫が用意されていて、近くのコンビニや館内のベンダーマシンで買った物を自由に持ち込める。かつてはユースホステルや民宿などを泊まり歩くのが学生ひとり旅の典型だったが、こうしたビジネスホテルを利用するのも一手である。

ちなみにインターネットで宿泊予約をするときは、宿泊予定日の間際（まぎわ）になると安い料金タイプに突然、空気が出たりする。当日の空室

国内の世界遺産を一人で訪ねる旅もよい。白川郷の合掌造りと稲穂

を探すのであれば駅周辺にある観光案内所などで尋ねるのもよいが、予算にあう宿が空いているかどうかは行ってみなくてはわからない。

航空や鉄道などの交通機関は早めに予約するほど、早割などの適用が受けられるしくみだ。しかし時間に余裕があるなら、高速バスを利用するのもよい。座席にゆとりをもたせるなど居住性も高く、何より安いのが特徴だ。

「3日、旅立ち」で 自分と向き合える旅

自分と向き合える旅——、それがひとり旅だ。日本国内で未だ観ぬ地、行ってみたい場所があるだろう。かつて多感なときにヒットした曲に「いい日、旅立ち」という歌があった。谷村新司さんが作詞作曲し、山口百恵さんが国鉄（現在のJRグループ）の旅行誘致キャンペーンソングとして歌って大ヒットした一曲だ。このタイトルどおり、思い立ったが吉日で、ぶらり一人で旅に出てみるのもよいだろう。

この夏、中学二年の二男が自分で宿を探して、ひとり旅に出た。JR松本駅（長野県）近くにある松本ツーリストホテルという宿を、インターネットで検索して予約したという。当初の予定は二泊だったものが、現地で延泊して四日目に帰京した。思春期にあり悩める我が子を送り出すには

多少の勇気があったが、小遣いの範囲でやるこの本人の言葉に、饑別も渡さず送り出した。往復の足は特急電車の半額ですむ高速バスを勧め、宿は学生証を提示したら割引をしてくれたと語る。

ここ数年、若年層の旅行離れが進み、海外ばかりか国内旅行も減少傾向にある。そこで観光業界団体が旗を振り「旅育」を推進しているが、親世代の経済情勢などを反映して食育ほどの大きなうねりには至っていない。親が子どもを、ただ旅行へ連れていくことだけが旅育であるなら、それは経済格差・体験格差を助長させることにもなる。

二男の行動から、成長過程のなかで自発的に旅に出るかどうかに旅育の着地点があることに気づか



ひとり旅で修学旅行以来の京都を訪ねるのもよいだろう。町屋の風情が薫る二寧(年)坂周辺



飛騨高山の観光案内所には外国人バックパッカーの姿も多くみられる

(凝ったお食事が二食付く日帰りプランで、滞在時間が長いもので八時間程度)という新形態が現れている。予算がなければ素泊まりで利用すればよい。旅館やホテルは予約時に前払い(旅行会社の店頭や銀行振込、コンビニ払い等)するのが一般的だが、現地払いではチェックイン時に、デポジット(保証金が必要なケースもある。クレジットカードの提示か、さもなければ宿泊料金より若干多めに現金を預け、チェックアウトのときに精算する。また予約時には、キャンセル料が発生する日がいづからなのか、必ずチェックしてから予約を入れるようにする。

どの時点で「一人発ち」するかは個人差もあるだろう。しかし将来、社会に出たら、時間をお金で買う急ぎ旅はあっても、自分自身と向き合える時間をかけた旅は、なかなかできなくなる。ローカル鉄道や長距離バスを利用した旅は、車窓からの眺めもよく印象に残る。時間をかけた旅は真の意味で贅沢といえよう。学生時代のうちに、ぜひひとり旅にチャレンジしてもらいたい。

デポジット・キャンセルチャージ 観光用語を覚えておこう

旅館業の多くは、もとは料理付きの宿泊提供がならわしだったことから、ルームチャージ(素泊まり)という概念があまりなかった。しかし近年、旅行形態が多様化してきたことから、「泊食分離」(宿泊料と食事代に分けて料金設定し、好みの食事プランを選べるようにすること)や「泊二食」

温泉街や地方都市の目抜き通り、路地裏には風情がある。観光まち歩きは各自自治体の観光課や商工課が推進する地方発のツーリズムだ。観光案内所では簡単な無料地図も配布されている。地元の本級グルメを味わうのもよい。

最後に、国内ひとり旅の注意点を二つ。(一)ひと里離れた寂しい場所は夜間のひとり歩きをしないこと(特に、女性のひとり歩きには気をつける)。(二)学生証や運転免許証など、身分を証明できるものを携行する。必需品は小さなメモ帳とペン、できればデジカメを持ち、旅の記録を忘れないで。ひとり旅にふけてみれば、きっと今までとは違う自分を発見できるはずだ。